

MiraQ LETTER

一般社団法人未来に輝く企業づくり研究会

VOL. 09

2025.12

Introduction

定例研究会第9回が開催！

2025年12月11日（木） MiraQ定例研究会の第9回が開催されました。今回は、現地13名の方にご参加いただきました！年末のお忙しいところ、ご参加頂きましてありがとうございます。
12月のテーマは「財務管理と利益計画」。経営をするにあたっては避けて通れない会計がテーマになりました。テーマは難しくはなりましたが、さらに学びの多い会になりました。



Discussion① 4つのレバー(PVQF)のうち

あなたの会社で一番の課題となっている要素は何ですか？

MQ会計の用語になりますが、4つのレバーを改めて考えてみました。私個人としては、弊社は圧倒的にQだと思っています。個々で見ると成長し、できることも増えてきているのですが、まだ社員一人の力だけでは対応できないことが多くあります。もし全員が同じレベルでできるようになれば、今の何倍もの受注が可能になるはずなので頑張りたいですね。

【参加者の意見】

「Pダウンは今の情勢では厳しいと思う。Qアップのために営業に力を入れており少しずつ成果が見え始めた。Pアップも視野に入れて取り組みたい。」Tさん
「理想はPアップだが、上げすぎると売れなくなるので難しい。市場はどうしても同じ製品だと安いものを購入するので、差別化をどうするか、またどう伝えていくのかも鍵になる。」Sさん

「業界の相場があるので、ある程度以上のPアップは難しい。そのためには商品開発が必要。ただPアップもやりすぎると嫌われるので、バランスがとても大事になってくる。」Nさん

F(固定費)をかけるというのは無駄！というようなイメージがどうしてもありましたが、今ではFの中身に注目するようになりました。例えば社員教育はFだけどコストではなく投資になるのでは？

ただそれが良い投資になるようにするには社員側の学意欲も大事になってきますよね。社員自身も会計を学ぶことは企業成長に繋がるのではないかなと思います。

Discussion② 現在の財務体質(安全性)はどのような状態ですか？

また今後どのようなB/Sにしていきたいですか？

このテーマこそ、普段あまり会計に携わらない方にとっては、かなり難しかったのではないのでしょうか。実は私自身も、これまで見たことがなかったため、所長の中村に聞いてみました。定例研究会を通して思ったことは「意外と「見せて」と言えば見せてくれる会社は多いのでは？」ということ
決算書は「隠すもの」ではなく、社員さんに開示するならどう活かすかが大切なのだと感じました。

【参加者の意見】

「昔の社長時代は見えていなかった決算書を見たときにびっくりした(悪い意味で)。だいが今は改善されてきているので、なぜそのような数字が大切なのかということを考えていきたい。今後は自己資本を上げていきたい。他社で数字をオープンにしているのが驚いた。」Hさん
「納税の大切さを学んだ。納税したくないからといってFをかけていると落とし穴がある…。決算書は隠している訳ではないが、社員は興味を持っていない？もっとオープンにしてもいいかもしれない。」Bさん
「流動比率が高すぎると勿体ないと感じる。各項目の数字に着目できると良い。」Kさん

会計を学んでいないと、「こんなに売上があるのに、なぜ分配は少ないの？」と誤ってしまいがち(?)ですが、実際には未来への積み立てや納税分の確保も必要です。

売上＝手元に残るお金ではない。この点が、私自身も社会人になるまであやふやだったな…と振り返りつつ、社員の皆さんと一緒に決算書の見方を学ぶ企画があっても面白そうだな、と勝手に思っていました。

次回案内

【テーマ】「労務管理と社員教育」

【日時】2026年1月22日（木）16:00～18:00

【会場】エル・おおさか 南101 もしくは オンライン

今月の定例研究会のテーマは、「財務管理と利益計画」でした。企業の持続的な成長や発展には、設備投資による供給力の向上と時代に則した商品開発が欠かせないわけですが、それらの活動によりどのように利益を稼ぎだすか、稼いだ利益をどのように再投資するのか、事業成長のためには欠かせない意思決定です。

